土呂久公害を学ぶ学習指導案　②

○本時の目標

　土呂久地区や他の地域の公害について調べ、被害が拡大した原因について理解することができる。【知識及び技能】

○本時の学習指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習内容及び学習活動 | 指導上の留意点 | 資料･準備 |
| 導入  ５分 | １　前時の学習を振り返る。  　○　宮崎県では土呂久公害が起こったこと、現在では自然豊かな環境を取り戻していることを想起する。  　○　DVDで学んだことを振り返り、地域住民からの訴えがあったことをおさえる。  ○　訴えがあったにも関わらず、どうして亜焼きは続けられ、被害が拡大してしまったのかについて考える。  ２　本時の学習問題を確認する。  学習問題  土呂久公害では、なぜ被害が拡大してしまったのだろうか | ○　前時で、宮崎県で起こった「土呂久公害」について学習したことを想起させる。  ○　公害時の土呂久と現在の土呂久を比較し、現在は自然豊かな土呂久が戻っていることを想起させる。  ○　公害で、人々の体に影響が出ていたり、訴えがあったりしたのにも関わらず、なぜ被害が拡大したのか考えることで、本時の学習問題に繋げる。 |  |
| 展開  33分 | ３　「土呂久公害」について、被害が拡大した原因について多角的に考える。  　・土呂久地区の地形や当時の暮らしが分かる資料、他の公害についての学習を参考にして原因を考える。  〈予想される児童の気付き〉  地形  ・　土呂久地区は山々に囲まれた場所にある。  当時の暮らし  ・　当時も農業や畜産業が中心であった。  ・　山々に囲まれているため、働く場所が限られているかもしれない。  他の公害についての学習  ・　経済発展するために全国に工場がたくさん建設された時代だった。  ・　当時は、公害の知識や公害を防ぐための技術が追いついていなかった。  ・　鉱山会社や役場に被害を訴えたが、聞き入れてもらえなかった。  ・　自分の生活を守るため、工業を中心とした経済発展のために経済面を優先する人々や社会構造があった。  ４　調べたことを全体で発表する。 | ○　土呂久の地形の資料を配布し、被害が拡大した原因について多角的に考えさせる。  ○　多角的に児童が考えられるような資料を提示し、被害が拡大した原因について考えさせる。  ○　調べて分かったことだけでなく、疑問や自分の考えも踏まえて話合いを行うことで、理解を深めることができるようにする。  ○　机間指導を行い、個人調べができていない児童には、指導助言を行う。  ○　個人で調べたことを全体で発表することで、被害が拡大した原因について理解を深めることができるようにする。 | ・　土呂久の地形が分かる資料  ・　当時の暮らしが分かる資料 |
| まとめ  ７分 | ５　学習のまとめをする。  ６　次時の予告をする。 | ○　本時で調べた「土呂久公害」で被害が拡大した原因について、児童が調べたことをもとにまとめる。  土呂久地区は、周囲を山に囲まれている地形であったため、亜焼きの煙を避けることができなかった。また、住民が訴えたが、当時は生活を守るために経済面を優先する人々がいたため被害が拡大した。 |  |

土呂久公害を学ぶ学習指導案　③

○本時の目標

公害をなくす、防ぐために様々な関係機関や団体の努力があったことやそれぞれが果たした役割などについて考え、表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】

○本時の学習指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習内容及び学習活動 | 指導上の留意点 | 資料・準備 |
| 導入  ５分 | １　前時の学習を振り返る。  　○　宮崎県で土呂久公害が起こったこと、現在では自然豊かな環境を取り戻していることを想起する。  　○　DVDで学んだことを振り返り、自然豊かな環境を取り戻すために、たくさんの人々が関わったことをおさえる。  ○　公害を防ぎ（なくし）、現在も自然豊かな環境を維持し続けるために、具体的にどのような人たちが関わり、努力があったのかという問いかけについて考える。  ２　本時の学習問題を確認する。  学習問題  土呂久公害を防ぎ（なくし）、自然豊かな環境を取り戻すために、どのような人々の努力があったのだろうか | ○　前時で、宮崎県で起こった「土呂久公害」について学習したことを想起させる。  ○　過去の土呂久と現在の土呂久を比較し、現在は豊かな自然を取り戻していることを捉える。  ○　自然豊かな環境を取り戻すために、多くの人々が関わったことを捉える。  ○　「豊かな環境を取り戻すために、人々は、どのような取組をしたのだろう。」と発問することで、本時の学習問題に繋げる。 | ・　土呂久DVD  ・　前時で用いたワークシート |
| 展開  33分 | ３　「土呂久公害」を防ぐ（なくす）ために関わった人々や行った活動について、地域住民、行政機関、支援者たちのそれぞれの立場に分けて調べる。  ◎　調べる内容  　①地域住民  　・土呂久の人々は支援を受けて裁判を起こした。  　②行政機関  　・土呂久の人々の健康状態の調査、農地や水質を改善する工事を行った。  　③支援者たち  　・被害者とともに行動してきた人たちは、飲み水が素に汚染されているアジアの人々の支援を行っている。    ４　調べたことを全体で発表する。 | ○　「土呂久公害」を防ぐ（なくす）ために人々が関わった活動について、視点を与えることで、何について調べるのか明確にできるようにする。  ○　「地域住民」「行政機関」「支援者たち」の3つを調べさせ、まとめるようにする。  ○　調べて分かったことだけでなく、疑問や自分の考えも書くことで、公害の内容を深めることができるようにする。  ○　個人で調べることが難しい児童には、個人指導を行い、何について調べればよいか助言を行う。  ○　個人で調べたことを全体で共有することで、関係機関や人々の様々な努力によって生活環境の改善が行われてきたことについて理解を深めることができるようにする。 | ・　ワークシート  ・　土呂久についての資料 |
| まとめ  ７分 | ５　学習のまとめをする。  ６　次時の予告をする。 | ○　調べたことをもとに本時の内容をまとめることで、多くの人々の努力があり、現在の美しい自然豊かな「土呂久地区」が戻っていることを理解させる。  土呂久公害をなくす、防ぐために、宮崎県では、田んぼや鉱山跡地の環境改善の工事を行い、地域住民のための健診を実施している。支援者たちは、土呂久の経験と教訓をアジア各地にも広げている。 | ・県やアジア砒素ネットワーク、宮崎県内外の大学などは、現在もフィール ドワークを行っている。小学校地区によってはフィールドワークに参加することも考えられる。 |

土呂久公害を学ぶ学習指導案　④

○本時の目標

学習したことをもとに、豊かな自然や環境を守るために自分たちが協力できることを考える。【学びに向かう力、人間性】

○本時の学習指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習内容及び学習活動 | 指導上の留意点 | 資料･準備 |
| 導入  ５分 | １　前時の学習を振り返る。  　○　前時までで学習した四大公害、宮崎県で土呂久公害が起こったこと、現在では自然豊かな環境を取り戻していることを想起する。  　○　自分たちの身の回りにある自然豊かな環境（川・山・海など）を考える。  （例　各地区の海岸、河川、田園、里山など各小学校区にある自然環境）  　○　自分たちの身の回りの自然豊かな環境を守り続けるために、自分たちはどうしたら良いかについて考える。  ２　本時の学習問題を確認する。  学習問題  公害を起こさず、自然豊かな環境を守り続けるために、自分たちには何ができるだろうか | ○　前時で、宮崎県で起こった「土呂久公害」について学習したことを想起させる。  ○　過去の土呂久と現在の土呂久を比較し、現在は豊かな自然を取り戻していることを捉えさせる。  ○　「自分たちの住んでいる地域には、どんな自然がありますか。」と発問することで、自分たちの地域にも多くの自然があり、自然に囲まれて生活していることを捉えさせる。  ○　「自分たちの身の回りの自然豊かな環境を守り続けるためには、どうしたら良いだろうか。」と発問し、本時の学習問題に繋げる。 |  |
| 展開  30分 | ３　自分たちの身の回りの自然豊かな環境を守るために、現在行われている取組について調べる。  〈予想される児童の気付き〉  ・　海岸や砂浜で清掃活動をしている。  ・　川の水質を保つ取組がある。  ・　リサイクルなどの４Ｒ（Refuse・Reduce・Reuse・Recycle）活動でごみを減らす。  ４　調べたことを全体で発表する。  ５　現在行われている取組を踏まえ、自分たちには何ができるかを考える。  〈予想される児童の気付き〉  ・　海岸や砂浜でのごみ拾い活動に参加する。  ・　マイバッグ運動や食べ残しを防ぎ、紙やペットボトルなどはリサイクルする。 | ○　自分たちの身の回りの自然豊かな環境を守るために、現在行われている取組についてタブレットを用いて調べさせる。  ○　タブレットを用いて調べさせることで、現在、環境を守るために、どのような取組があるのか理解できるようにする。  ○　個人で調べることが難しい児童には、個人指導を行い、何について調べればよいか助言を行う。  ○　個人で調べたことを全体で発表することで、多くの人々が様々な活動を行っていることについて理解を深めることができるようにする。  ○　調べたことをもとに、自分たちにできることは何か考えることで、これからの社会への関わり方について捉えさせる。 | ・　タブレット |
| まとめ  10分 | ６　学習のまとめをする。  ７ 「公害は、今の時代にないのか」という問いかけについて考える。  ８ 大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭など今も自分たちの身近なところで公害は起こっていることを知る。  ９　次時の予告をする。 | ○　調べたことをもとに本時の内容をまとめる。豊かな環境を守り続けるために、自分たちにできることについてまとめさせる。  自然豊かな環境を守り続けるためには、地域で行われている活動に参加をしたり、リサイクルなどのごみの減量化に取り組んだり、環境にやさしい社会づくりに向けて自分自身ができることを考え、行動することが大切である。  ○　まとめの後、「公害は、今の時代はないのだろうか。」と発問し、現在の環境問題について考えさせる。  ○　自分たちの身近にも環境問題が起こっていることを理解させる。  ※　習熟度に応じ、以下の視点を提示する。  ・経済がグローバル化する中、わたしたちの行動が地球規模では社会的な貧困や争いにつながっている可能性があること。  ・わたしたち人間の健康が地球の健康につながっているとの考え方（プラネタリーヘルス）があること。 |  |